

名古屋・・・軍需産業拠点への徹底破壊から復興・躍進

名古屋を中心とする中京工業地帯は、戦前から重化学工業が盛んであったことに加えて、愛知航空機や三菱重工、中島飛行機など航空機の生産工場があり、日本の軍需産業の重要拠点でした。そのため、名古屋は徹底的な爆撃を受けました。大空襲といわれる規模の大きな空襲は実に 16 回に及び旧市域の約 4 分 1 が灰燼に帰し、約 8,000 人が命を落としました。特に、都心部の商業地域や南部・北部の重工業地帯の被害が大きく、昭和 20 年（1945 年）5 月 14 日の空襲では名古屋城の天守閣も焼失しました。

全国主要都市戦災概況図 附図 71 名古屋



昭和 20 年 12 月 第一復員省作成（国立公文書館所蔵）



空襲で天守閣を焼失し石垣だけが残る名古屋城
(上)と昭和34年に復元された天守閣(下)



戦後間もないころの名古屋駅（上）と
高層ビルが立ち並ぶ現在の名古屋駅（下）

